

死生学・実践宗教学専攻分野科目

| 授業科目 | 講義題目 | 単位 | 担当教員氏名 | 曜日・講時 |
|------------|------------------------|----|------------------|-------------|
| 死生学特論Ⅰ | 死生学の諸問題 | 2 | 高橋 原 | 前期 水曜日 3講時 |
| 死生学特論Ⅱ | スピリチュアリティと宗教心理 | 2 | 高橋 原 | 後期 水曜日 3講時 |
| 死生学特論Ⅲ | 死とともに生きることを学ぶ | 2 | 竹之内 裕文 | 前期集中 その他 連講 |
| 実践宗教学特論Ⅰ | 宗教と社会福祉 | 2 | 井川 裕覚・谷山 洋三 | 前期 金曜日 4講時 |
| 実践宗教学特論Ⅱ | スピリチュアルケア | 2 | 井川 裕覚・谷山 洋三 | 後期 金曜日 4講時 |
| 実践宗教学特論Ⅳ | 実践宗教学試論～宗教者によるケア実践 | 2 | 高橋 原 | 後期 水曜日 5講時 |
| 応用死生学研究実習Ⅰ | スピリチュアルケア実習 | 2 | 高橋 原・井川 裕覚・谷山 洋三 | 前期 木曜日 1講時 |
| 応用死生学研究実習Ⅱ | スピリチュアルケア実習 | 2 | 高橋 原・井川 裕覚・谷山 洋三 | 後期 木曜日 1講時 |
| 応用死生学研究実習Ⅲ | スピリチュアルケア実習内容の指導(振り返り) | 2 | 高橋 原・井川 裕覚・谷山 洋三 | 前期 木曜日 2講時 |
| 応用死生学研究実習Ⅳ | スピリチュアルケア実習内容の指導(振り返り) | 2 | 高橋 原・谷山 洋三・井川 裕覚 | 後期 木曜日 2講時 |
| 実践宗教学特論Ⅲ | 死生学文献講読 | 2 | 高橋 原 | 前期 水曜日 5講時 |

科目名：死生学特論 I / Death & Life Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LM13302, 科目ナンバリング：LGH-RES610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死生学の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Some Topics on Death Studies
3. 授業の目的と概要：死生学をめぐる諸問題について学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students learn what death studies is.
5. 学習の到達目標：死生学的観点から、文化の中の死について理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students understand death in cultural contexts from the view point of death studies.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
指定テキスト（参考書）のトピックにそって、関連する話題を取り上げていく。
 - (1) 死生学とは何か
 - (2) 死生観と宗教
 - (3) 日本人の死生観
 - (4) 喪と追悼
 - (5) 死生観一国と地域の視点から
 - (6) マスメディアで死生について考える
 - (7) 「生と死」を生きる本人からの発信
 - (8) 老いと死
 - (9) 病い経験と「生」
 - (10) 遺族の喪失体験とグリーフワーク
 - (11) 自己決定権
 - (12) ターミナルケア
 - (13) 自殺予防
 - (14) 尊厳死
 - (15) まとめ
8. 成績評価方法：
毎回のミニットペーパーと期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：
(参考書)
石丸昌彦『死生学入門』放送大学教育振興会 2014
石丸昌彦『死生学のフィールド』放送大学教育振興会 2018
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

科目名：死生学特論Ⅱ／ Death & Life Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LM23303, 科目ナンバリング：LGH-RES611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアリティと宗教心理
2. Course Title (授業題目)：Spirituality and Psychology of Religion
3. 授業の目的と概要：W・ジェームズ、S・フロイト、C・G・ユング等の古典的な宗教心理学者たちの議論を踏まえて、諸事例をとりあげながら、スピリチュアリティと宗教について考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will learn about the classical theories of psychologists of religion, such as, Willam James, Sigmund Freud, or Carl Gustav Jung. This will help students understand the meaning of religion and spirituality in terms of human psyche.
5. 学習の到達目標：心理学者たちの思想的営みと基本概念を学び、危機におけるスピリチュアリティの働きを理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Student will learn the thought of psychologists and basic theory of their system, in order to understand how spirituality effects human in crisis.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：イントロダクション
 - 第2回：古典的回心理解(1)
 - 第3回：古典的回心理解(2)
 - 第4回：現代人の回心体験とスピリチュアリティ(1)
 - 第5回：現代人の回心体験とスピリチュアリティ(2)
 - 第6回：ウィリアム・ジェームズの宗教論(1) 健全な心と病める魂
 - 第7回：ウィリアム・ジェームズの宗教論(2) 潜在意識仮説とプラグマティズム
 - 第8回：心理療法と宗教(1)
 - 第9回：心理療法と宗教(2)
 - 第10回：心理療法と宗教(3)
 - 第11回：心理療法と宗教(4)
 - 第12回：深層心理学と宗教(1)
 - 第13回：深層心理学と宗教(2)
 - 第14回：深層心理学と宗教(3)
 - 第15回：まとめ
8. 成績評価方法：

毎回提出のミニットペーパーの内容と、期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：

特に指定しない。
10. 授業時間外学習：配布資料を熟読し、理解を深める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

毎回授業内で課題を出すのでミニットペーパーで回答すること。

科目名：死生学特論Ⅲ／ Death & Life Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：竹之内 裕文

コード：LM98820, 科目ナンバリング：LGH-RES612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死とともに生きることを学ぶ

2. Course Title (授業題目)：Cultivating Wisdom of Mortal Human Life

3. 授業の目的と概要：なぜ死生学という学問が誕生したのかというところから始め、終末期医療、在宅での看取りといった現代医療の問題や、大震災被災地での支援、老人介護など、超高齢多死社会といわれる現代生活の多様な局面を取り上げながら、誰もがケアの担い手になり得るという現実を理解し、それぞれの立場から人間の生と死を取り巻く諸問題にどのように対処していけばよいのかを考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course describes the origins and purposes of the discipline of thanatology and covers various problems and challenges faced by modern medicine, such as an increasing demand for terminal care and home health nursing. Today, we are asked to provide care and support in multiple and varied circumstances: as volunteers in the areas affected by the Great East Japan Earthquake, as elderly care workers, etc. Ultimately, any member of our super-aged, mass death society may find him- or herself in the position of a caregiver. This course aims to prepare students for this role and give each of them an opportunity to look for his or her personal way to address a range of issues related to human life and death.

5. 学習の到達目標：①対話スタイルで進められる授業を通して、対話的探究の楽しさと可能性を味わい、対話のスピリットと技法を習得する。

②テキストを読み、他の受講者や教員と対話することを通して、「死とともに生きる」自分なりの構えと知恵を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn the key concepts of thanatology and gain a deeper insight into present-day issues concerning life and death. Students are expected to:

1) discover the joys, as well as effectiveness, of dialogic inquiry through interactive, dialogic lectures; and cultivate the mentality and a set of skills necessary for constructing a productive dialogue.

2) develop personal strategies for dealing with death through the dialogue with course-related texts and other learners.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業では、すべての人間の共通課題である「死」と「死別」と正面から向き合い、他者とともにどのように生きるかについて、対話を通して共に探究する。授業は、1) 所定のテキストの各章(序章～終章)をめぐる9つの対話、2) コミュニティ緩和ケアの現場(穂波の郷)でのフィールドワーク、3) 重度障害者の自立生活に関する動画鑑賞により構成される。

- 1) ガイダンス：講義の目的と進め方、「対話」をめぐる試行の対話
- 2) ワールドカフェ ある死別の経験から(序章)
- 3) 映画『生かされて生きる』鑑賞
- 4) テキストをめぐる対話① 重度障害者自立ホームから(第1章)
- 5) テキストをめぐる対話② 在宅緩和ケアの現場から(第2章)
- 6) テキストをめぐる対話③ 死者と共にある農村との出会い(第3章)
- 7) テキストをめぐる対話④ いのちにあずかって生き、死ぬ(第4章)
- 8) テキストをめぐる対話⑤ 共に生きること、本当に生きること(第5章)

9) 10) 11) コミュニティ緩和ケアの現場(穂波の郷)でのフィールドワーク

12) テキストをめぐる対話⑥ 森と湖の国の「福祉」(第6章)

13) テキストをめぐる対話⑦ ホスピス運動の源流を辿る(第7章)

14) テキストをめぐる対話⑧ 死とともに生きることを学ぶ～哲学と対話(終章)

15) 授業全体のふり返り

8. 成績評価方法：

ポイント制とします。試験やレポートはありません。

1. テキストをめぐるワールドカフェ/対話(全9回)の準備作業として、受講者は各回の授業冒頭にフィードバックシートを提出します。すべての設問にきちんと回答して、フィードバックシートをすべて提出すると、8点満点×9回=72点のポイントを獲得します。

2. 全体対話での発言については、これを対話的探究への寄与と位置づけ、1回あたり3点を加算します。

9. 教科書および参考書：

講義担当者の単著『死とともに生きることを学ぶ 哲学と対話』(ポラーノ出版 2019 ISBN: 978-4908765223)をテキストとして使用します。宗教学研究室にて割引価格で購入できるように手配します。

The course is based on the instructor's book:

Takenouchi Hirobumi. Shi to Tomo ni Ikiru Koto wo Manabu: Tetsugaku to taiwa (Polano Shuppan, 2019)

1 0. 授業時間外学習：講義テキストを事前に読み、序章から終章について、それぞれフィードバックシートに記入してもらいます。通常の授業より、事前の準備課題が多いように感じられるかもしれません。しかしその分、事後のレポートや試験はありません。対話＝本番という考え方を共有してください。

Students are required to read the assigned texts in advance and fill in all feedback sheets (eight in total).

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

きちんと準備して臨めば、きっと楽しい授業となるでしょう。母校での対話的探究を楽しみにしています。死生学カフェと対話については次の URL を参照ください。<https://www.facebook.com/shiseigakucafeshizuoka/>
<http://hdl.handle.net/10297/00027723>

科目名：実践宗教学特論 I / Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：井川 裕覚・谷山 洋三

コード：LM15408, 科目ナンバリング：LGH-RES613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教と社会福祉

2. Course Title (授業題目) : Religion and Social Welfare

3. 授業の目的と概要：社会福祉の源流として、キリスト教など諸宗教の慈善活動がある。これらの慈善活動そのものは意義深いものであるが、時代性による限界もあって、人権意識や平等性に課題があった。そのような前近代的課題を克服することで、個人の自由を前提とした「社会福祉」が発展した。このような経緯を踏まえて、日本での仏教社会福祉史、バングラデシュの仏教徒と社会福祉活動、長岡西病院ビハラー病棟、東日本大震災後の被災者支援活動などを例に、宗教と社会福祉の関係性について考察し、超高齢多死社会となる日本社会において、宗教が果たし得る役割について

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The source of social welfare is the charity activities of various religions, including Christianity. Although these charity activities themselves are significant, they are limited by the times, and there are issues with human rights awareness and equality. By overcoming such pre-modern challenges, "social welfare" based on individual freedom developed. Based on this background, we will consider the relationship between religion and social welfare, using examples such as the history of Buddhist social welfare in Japan, Buddhists and social welfare activities in Bangladesh, the Vihara Ward of Nagaoka Nishi Hospital, and support activities for victims after the Great East Japan Earthquake, and so on. We will examine the role of religion in Japanese society, which is becoming a super-aging death-ridden society.

5. 学習の到達目標：宗教と社会福祉の関係性、超高齢多死社会における宗教の貢献について考察し、理解を深める。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students better understand the relationship between religion and social welfare, and contributions by religious organizations in a super-aged death-ridden society.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

資料等は、Google Classroom に提示する。

第1回：オリエンテーション

第2回：慈善と社会福祉

第3回：社会福祉と諸宗教

第4回：仏教と社会福祉

第5回：バングラデシュの仏教と社会福祉

第6回：ビハラー運動

第7回：小括（仏教と社会福祉）

第8回：震災と支援

第9回：地域包括ケア

第10回：自殺対策

第11回：小括（死と宗教）

第12回：ソーシャル・キャピタル

第13回：コンパッション・コミュニティ

第14回：小括（地域社会と宗教）

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

授業時提出の小レポート[50%]、発表・授業への取り組み[50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：アラン・ケレハー『コンパッション都市』慶應義塾大学出版会、2022年

淑徳大学創立50周年記念論集刊行委員会編『共生社会の創出をめざして』学文社、2016年

10. 授業時間外学習：授業内で指示する

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：実践宗教学特論Ⅱ／ Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：井川 裕覚・谷山 洋三

コード：LM25402, 科目ナンバリング：LGH-RES614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア

2. Course Title (授業題目)：Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：国内のスピリチュアルケアの議論に触れつつ、その多様性と課題を確認した上で、臨床宗教師が誕生した背景、スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違、両ケアの共通性としての宗教的資源の活用など、ケア実践の具体像に迫るとともに、体験的ワークにより理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Discussing on spiritual care in Japan and confirming its diversity and challenges; such as the background of the birth of Rinsho-shukyo-shi, or interfaith chaplain, the difference between spiritual care and religious care, and the utilization of religious resources as the commonality of both cares, The students will explore the specifics of care practice and deepen their understanding through a workshop.

5. 学習の到達目標：公共空間で提供されるスピリチュアルケアについて、その理念と方法の理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand spiritual care provided in public spaces and its philosophy and methods.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

オンライン授業の場合は、ライブ配信で実施する。詳細は、Google Classroom に提示する。

第1回：オリエンテーション

第2回：チャプレンとビハーラ僧

第3回：「臨床宗教師」の誕生

第4回：生活の中にある心のケア

第5回：スピリチュアルペイン

第6回：スピリチュアルな探求

第7回：「支える」「気づいてもらう」スピリチュアルケア

第8回：「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア

第9回：宗教的資源の活用

第10回：宗教的ケア

第11回：臨床宗教師の可能性

第12回：臨床宗教師の資質

第13回：ワークショップ「死の体験」

第14回：ワークショップ振り返り

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

授業時提出の小レポート[50%]、発表・授業への取り組み[50%]

9. 教科書および参考書：

教科書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年

参考書：瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年

10. 授業時間外学習：授業内で指示する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：実践宗教学特論Ⅳ／ Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LM23506, 科目ナンバリング：LGH-RES616J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：実践宗教学試論～宗教者によるケア実践
2. Course Title (授業題目)：Practice of care around death by religious professionals
3. 授業の目的と概要：とりわけ「死」の周辺において宗教者が果たしてきたケアの役割について現場経験から学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students learn how religion has played the role of care for the people facing death.
5. 学習の到達目標：さまざまな実践例から、宗教文化が死に直面した人々のケアに寄与してきたことを理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students understand from practical cases how religion has contributed to the care for the people facing death.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 本学担当教員による回と、ゲスト講師としてケアの現場で活動する宗教者（臨床宗教師）を招く回があります。各回の内容は仮のもので、順序、担当講師の詳細は未定です。決定し次第掲示等で告知します。
 1. 臨床宗教師の理念
 2. グリーフケアと宗教
 3. カフェ・デ・モンク（宗教者による被災地支援の実情）
 4. スピリチュアルケアと宗教的ケア
 5. 終末期医療と宗教者
 6. 臨床心理学と宗教
 7. 民間信仰論
 8. 宗教間対話
 9. 臨床宗教師の実践報告(1)
 10. 臨床宗教師の実践報告(2)
 11. 臨床宗教師の実践報告(3)
 12. 臨床宗教師の実践報告(4)
 13. 臨床宗教師の実践報告(5)
 14. 臨床宗教師の実践報告(6)
 15. 臨床宗教師の実践報告(7)
8. 成績評価方法：
 毎回のミニットペーパーの内容と出席状況により判断する。
9. 教科書および参考書：
 特に指定しない。
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

科目名：応用死生学研究実習 I / Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience)

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：高橋 原、井川 裕寛、谷山 洋三

コード：LM14101, 科目ナンバリング：LGH-RES617J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習

2. Course Title (授業題目)：Field Experience of Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：死生学的課題にとりくむ現場を参与観察するとともに、スピリチュアルケア実践の実習を行い、実習先・ケアチームの状況理解、倫理的課題、ケア対象者のニーズと対応、ケア提供者の責任と実践力を身につける。実習報告会(会話記録検討会など)では、他の履修者の実習内容から、実践の多様性とフレキシビリティを学びつつ、自己課題に向き合い、ケア提供者としての自己の適性を明らかにする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students participate and observe the clinical sites that deal with life-and-death issues and spiritual care. They improve the specific understanding of care team, ethical issues, needs and responses of the clients, responsibility and practical ability of care providers. In practice report sessions (including verbatim session, etc.), each student learns about the diversity and flexibility of practice from the reports of other students, faces self-goals, and clarifies their aptitude as a care provider.

5. 学習の到達目標：スピリチュアルケアの現場に身を置くことで、死生学的課題にとりくむ実践力を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students develop practical skills in dealing with life-and-death issues by putting themselves through the clinical training of spiritual care.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業のみ

第1回：学習契約

第2回：実習先の決定・書類締結

第3回：実習訪問(1)実習先の状況理解

第4回：実習訪問(2)チームの状況理解

第5回：実習訪問(3)職掌の理解

第6回：実習訪問(4)倫理的課題

第7回：実践報告会(1)実習現場特性と実習内容の分かち合い

第8回：実習訪問(5)参与観察報告1

第9回：実習訪問(6)ケア提供者の責任

第10回：実習訪問(7)ケア対象者のニーズ

第11回：実習訪問(8)ケア提供者の対応

第12回：実践報告会(2)実習現場特性と実習内容の分かち合い

第13回：実習訪問(9)参与観察報告2

第14回：実習訪問(10)ケア提供者の倫理

第15回：まとめ・自己評価

8. 成績評価方法：

レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]

9. 教科書および参考書：

教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年

参考書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年

瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年

10. 授業時間外学習：授業内で指示する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

この授業の履修には、高度な日本語運用能力が不可欠です。履修者は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。併せて、応用死生学研究実習 I、死生学特論 I(高橋原)、実践宗教学 特論 I(谷山洋三)、人文社会科学総合(前期、高橋原)を履修すること。

科目名：応用死生学研究実習Ⅱ／ Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience)

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：高橋 原, 井川 裕寛, 谷山 洋三

コード：LM24101, 科目ナンバリング：LGH-RES618J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習

2. Course Title (授業題目)：Field Experience of Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：スピリチュアルケアが提供される現場での実習と参与観察を行い、これに基づいてケーススタディによるレポート(会話記録 など)を作成・発表し、職掌の理解、倫理的課題の把握と分析、多職種チームアプローチの方法と意義、ケア提供者の責任と 倫理について、実践的な視点から考察する。実習報告会(会話記録検討会など)では、他の履修者の実践内容に基づいて、自 己の実践性について相互評価を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students conduct the clinical training and observe the clinical sites where spiritual care is provided. They write and present reports (such as verbatim) based on this field experience, to grasp and analyze the ethical issues, multi-disciplinary team approach, and the responsibilities of the care provider; through practical perspective. In practice report sessions (including verbatim session, etc.), students evaluate his/her performance each other through the reports.

5. 学習の到達目標：死生学的課題にとりくむ現場における自らの役割を理解し、体系的に論じる力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students develop the understanding of own role in the field of dealing with life-and-death issues, and develop the ability to discuss it systematically.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業のみ

第1回:学習契約、実習先の決定・書類締結

第2回:実習訪問(1)実習先の状況理解

第3回:実習訪問(2)職掌の理解

第4回:実習訪問(3)倫理的課題

第5回:実践報告会(1)実習内容の分析

第6回:実習訪問(4)参与観察報告1

第7回:実習訪問(5)チームアプローチ

第8回:実習訪問(6)多職種間コミュニケーション

第9回:実践報告会(2)実習内容の分析と批判的検討

第10回:実習訪問(7)参与観察報告2

第11回:実習訪問(8)情報共有

第12回:実践報告会(3)活動の倫理と責任についての分析

第13回:実習訪問(9)ケア提供者の倫理

第14回:実習訪問(10)ケア提供者の責任

第15回:まとめ・自己評価・実習報告レポート

8. 成績評価方法：

レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]

9. 教科書および参考書：

教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010 年

参考書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016 年

瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021 年

10. 授業時間外学習：授業内で指示する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

この授業の履修には、高度な日本語運用能力が不可欠です。履修者は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。応用死生学研究実習 I、応用死生学研究実習 III、死生学特論 I(高橋原)、実践宗教学特論 I(谷山洋三)、人文社会科学総合(前期、高橋原)を履修済みであること。併せて、応用死生学研究実習 II、死生学特論 II(高橋原)、実践宗教学特論 II(谷山洋三)、人文社会科学総合(後期、高橋原)を履修すること。

科目名：応用死生学研究実習Ⅲ／ Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：高橋 原・井川 裕寛・谷山 洋三

コード：LM14208, 科目ナンバリング：LGH-RES619J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習内容の指導(振り返り)
2. Course Title (授業題目)：Supervision for the Field Experience of Spiritual Care
3. 授業の目的と概要：応用死生学研究実習Ⅰの実習での経験に基づいて、グループワークを通して、傾聴の姿勢・態度、言語的・非言語的コミュニケーション能力、ケア対象者理解について自己検証・内省する。自己検証・内省を継続することにより、実践力を養う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Each Student reflects and evaluates his/her own listening attitudes, verbal and non-verbal communication skills, and understanding of the clients through group sessions, based on the field experience in Practical Studies on Death & Life I. They improve practical skills by continuing self-evaluation and reflection.
5. 学習の到達目標：実習での経験に基づいてスピリチュアルケア提供者としてのアイデンティティ確立を目指す。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Each student establishes his/her own identity as a spiritual care provider based on field experiences.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
対面授業のみ
第1回：実習先オリエンテーション
第2回：ケア倫理オリエンテーション
第3回：学習契約
第4回：傾聴の姿勢・態度
第5回：感情のキャッチボール
第6回：ロールプレイ(1)傾聴の姿勢・態度の確認
第7回：会話記録検討(1)感情表現
第8回：会話記録検討(2)言語的コミュニケーション
第9回：会話記録検討(3)非言語的コミュニケーション
第10回：総合ディスカッション
第11回：会話記録検討(4)ケア対象者理解
第12回：会話記録検討(5)ケア提供者の自己覚知
第13回：会話記録検討(6)感情表現によるケア
第14回：ロールプレイ(2)傾聴の姿勢・態度の変化確認
第15回：まとめ・自己評価
8. 成績評価方法：
レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]
9. 教科書および参考書：
教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年
参考書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
この授業の履修には、高度な日本語運用能力が不可欠です。履修者は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。併せて、応用死生学研究実習Ⅰ、死生学特論Ⅰ(高橋原)、実践宗教学 特論Ⅰ(谷山洋三)、人文社会科学総合(前期、高橋原)を履修すること。

科目名：応用死生学研究実習Ⅳ／ Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：高橋 原、谷山 洋三、井川 裕覚

コード：LM24208, 科目ナンバリング：LGH-RES620J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習内容の指導(振り返り)
2. Course Title (授業題目)：Supervision for the Field Experience of Spiritual Care
3. 授業の目的と概要：応用死生学研究実習Ⅱの実習に基づいて、感情の言語化、自分史の振り返り、自己開示・内省のワークショップを通して、自己のケア能力・姿勢・態度を検証・内省する。自己検証・内省を継続することにより、高度な実践力を養う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Each Student verbalizes own emotions and reflects on his/her own life history, in self-disclosure and introspection workshops. He/She reflects and evaluates his/her own care skills and listening attitudes through these group sessions, based on the field experience in Practical Studies on Death & Life II. They better improve practical skills by continuing self-evaluation and reflection.
5. 学習の到達目標：実習での経験に基づいてスピリチュアルケア専門職としての責任と倫理を高め、専門的な実践力を養う。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Each student develops his/her responsibility and ethics as a spiritual care professional based on the experience of practical training, and then cultivates the professional ability.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
対面授業のみ
第1回：実習先オリエンテーション
第2回：ケア倫理オリエンテーション
第3回：学習契約
第4回：ロールプレイ 傾聴の姿勢・態度の確認
第5回：会話記録検討(1)沈黙によるケア
第6回：会話記録検討(2)感情表現によるケア
第7回：会話記録検討(3)感情の言語化
第8回：会話記録検討(4)自己開示
第9回：総合ディスカッション
第10回：生育歴セミナー(1)自分史の振り返り
第11回：生育歴セミナー(2)課題の自覚
第12回：会話記録検討(5)自己内省
第13回：会話記録検討(6)「傷ついた癒し人」
第14回：会話記録検討(7)セルフケア
第15回：学習成果報告
8. 成績評価方法：
レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]
9. 教科書および参考書：
教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年
参考書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：
この授業の履修には、高度な日本語運用能力が不可欠です。履修者は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。応用死生学研究実習Ⅰ、応用死生学研究実習Ⅲ、死生学特論Ⅰ(高橋原)、実践宗教学特論Ⅰ(谷山洋三)、人文社会科学総合(前期、高橋原)を履修済みであること。併せて、応用死生学研究実習Ⅱ、死生学特論Ⅱ(高橋原)、実践宗教学特論Ⅱ(谷山洋三)、人文社会科学総合(後期、高橋原)を履修すること。

科目名：実践宗教学特論Ⅲ／ Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LM13506, 科目ナンバリング：LGH-RES615J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死生学文献講読
2. Course Title (授業題目)：Readings: Death and Life Studies
3. 授業の目的と概要：死生観に関する文献を読み、日本文化における悲嘆とそのケアのありかたについて基礎的な知識を得る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will read literature on the history and culture related to death and grief in Japanese cultural tradition.
5. 学習の到達目標：日本人の文学的感性が死と悲嘆をどのように捉えてきたのか、事例を踏まえて理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn the history and culture related to grief care, in order to understand effective method of care for the bereaved. .

7. 授業の内容・方法と進度予定：

島菌進『死生観を問う 万葉集から金子みすゞへ』(朝日選書 1037)を読み進める。

学生は担当箇所についての要約発表を行い、授業内でディスカッションを行なう。

- (1)イントロダクション
- (2)【序章】自分自身の死生観を探る——東日本大震災後に目立つ死生観探究
- (3)【第1章】魂のふるさとと原初の孤独 死者が近くにいるという感覚
- (4)折口信夫のマレビト
- (5)魂のふるさとへの憧憬
- (6)【第2章】無常を嘆き、受け入れる 無常——野口雨情の童謡と一茶の「おらが春」
- (7)無常を描き出す宗教文書と文芸
- (8)無常観——芭蕉と李白
- (9)【第3章】悲嘆の文学の系譜 王朝文芸の「はかなし」と死生観
- (10)母の悲嘆と作者の憤り、そして笑い
- (11)【第4章】無常から浮き世へ 桜に託された孤独、苦悩と信仰の間
- (12)現代人のうき世観と魂のふるさと
- (13)【終章】夏目漱石、死生観を問う——死生観が問われる時代
- (14)まとめ その一
- (15)まとめ その二

8. 成績評価方法：

出席回数と発表内容により総合に評価する。

9. 教科書および参考書：

島菌進『死生観を問う 万葉集から金子みすゞへ』(朝日選書 1037)、朝日新聞出版、2023

10. 授業時間外学習：指定テキストを熟読すること。発表担当者はレジュメを用意すること。詳細は初回に指示する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：